

# マンホールからのぞく地質の世界 5

## —富士山（静岡県）—

長森 英明<sup>1)</sup>

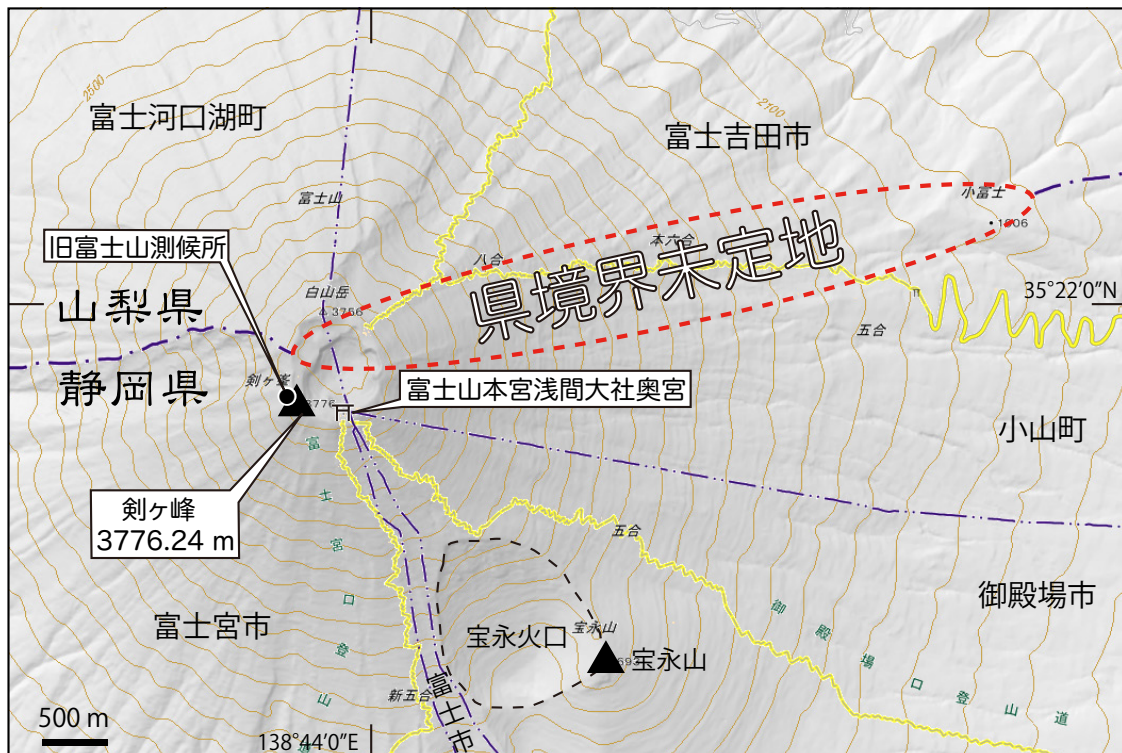
### 1. はじめに

本稿は、デザインマンホールの蓋を題材にして郷土に関わる地質について紹介するシリーズの第5回目となります。今回紹介するのは富士山をモチーフとしたデザインマンホール(以下富士山マンホール)です。富士山はその高さ、山容もすばらしいため日本で最も美しく有名な山と断言しても、恐らく異論はないでしょう。

富士山は3776.24 mの日本一の標高を誇り、円錐形の容姿端麗な典型的な成層火山の山容を現しています。古くから霊峰として山岳信仰の対象となっています。1936年に富士箱根伊豆国立公園に指定され、最近では2013年に「富士山-信仰の対象と芸術の源泉」という名称でユネスコの世界文化遺産となっています。このほか、2007年に日本の地質百選にも選ばれています。

ところで、富士山の山頂は静岡県側なのか山梨県側なのかご存じでしょうか？静岡県出身の私は子供の頃、静岡県にがあると信じていました。この問題は古くからあり、江戸時代から論争が続いているようです。そこで、まず国土地理院の地形図で確認してみました。山頂付近では県境線が引かれていません(第1図)。県境が定まっていない境界未定地は全国に14箇所あるといわれていますが、富士山頂付近はそのうちの1つです。ちなみに、山頂にある建造物の住所を調べてみると、富士山本宮浅間大社奥宮は静岡県富士宮市富士山頂上官有無番地、旧富士山測候所の所在地は静岡県富士宮市富士山頂剣ヶ峰とされています。しかし、正式な登記はなされておらず、郵便事情などによる便宜的な表記となっています(秋山・中原, 2009)。

富士山は日本一高い山だけあって、広範囲から望むことができる(田代, 2011 など)ため、富士山マンホールは数



第1図 富士山の火口付近の地図  
基図に地理院地図を利用しました。

1) 産総研 地質調査総合センター 地質情報研究部門

キーワード：デザイン、マンホール、郷土、地質、富士山、火山、静岡県

多く存在します。富士山マンホールは広範囲に分布し、数も多いので、「静岡県」、「山梨県」、「遠隔地」の3回に分けて紹介します。出身地の郷土愛を前面にだして富士山マンホールの紹介はまず静岡編から始めます。なお、マンホールの蓋は、<sup>あんきよ</sup>暗渠にアプローチするための縦坑の蓋です。そのため、厳密に言えば暗渠を伴わない消火栓や水道などのメンテナンス用の蓋は含まれません。しかし、本稿では富士山がデザインされたそのような蓋も含めて紹介します。第2図に静岡県の富士山マンホールが設置されている市町村の位置を示します。

それでは、富士山マンホールから地質の世界をのぞいてみましょう。

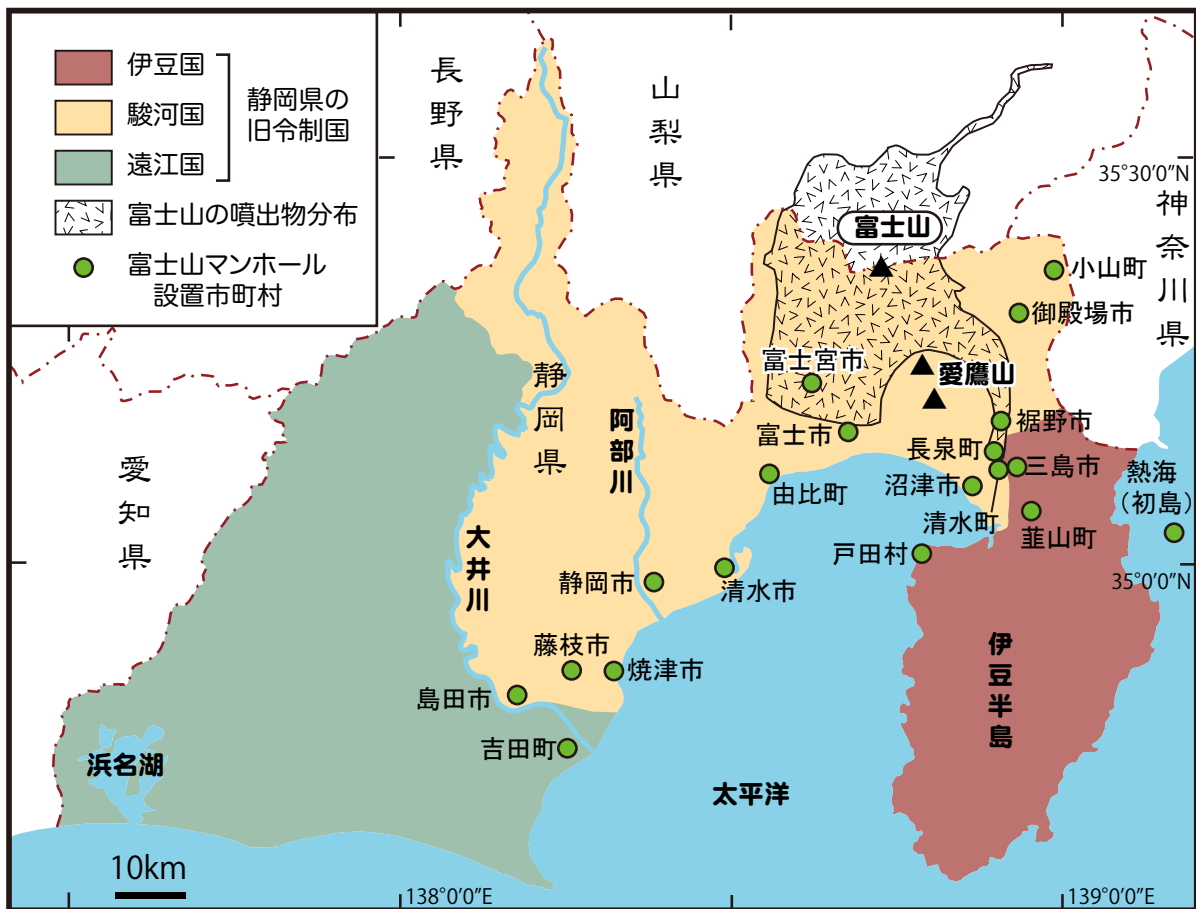
## 2. 静岡県のデザインマンホールに見る富士山

本章では、静岡県の富士山マンホールを、富士山に近い東から西に向かって紹介し、デザインの意匠について解説します。なお、マンホールは様々な大きさがあるため、写真は相対的な大きさを示します。

<sup>すんとう おやま</sup>駿東郡小山町（第3図）熊にまたがり、<sup>まさかり</sup>鉞を担いだ金太郎がモチーフとなっているデザインです。童謡の「金太郎」で唄われたイメージそのものです。金太郎は小山町で誕生したとされています（小山町HP：金太郎紹介）。なお、金太郎に関する伝説は全国各地にあるようです。金太郎の背後には富士山がデザインされた町章に囲まれた富士山があしらわれています。外周には富士山周辺に自生しているフジアザミ（*Cirsium purpuratum*）が取り囲んでいます。

**御殿場市1（第3図）** 御殿場市の一般的なマンホールです。富士山を背景に、かつて御殿場線で活躍した蒸気機関車D52の疾走する姿が描かれています。沼津駅に向かう下り線の風景でしょうか。脇の桜は、市の花「フジザクラ（*Cerasus incisa*）」です。

**御殿場市2（第3図）** 農業集落排水用の蓋です。荒々しい姿の富士山の山裾に広がる田園に稲穂が実り、案山子が配置されたデザインです。案山子の笠にカラスがのっています。



第2図 静岡県の富士山マンホール分布  
市町村名はデザインマンホールが採用されたときの名称で示してあります。



第3図 静岡県の富士山マンホール大全 1

**御殿場市 3 (第 3 図)** 上水道の仕切弁のメンテナンスホールの蓋にカラスと富士山がデザインされています。なぜかカラスが 2 種類の蓋に登場していますが、御殿場市とカラスには特別な関係はないようです。

**御殿場市 4 (第 3 図)** 上水道の蓋にシンプルな富士山のデザインが使われています。

**裾野市 1 (第 3 図)** 裾野市中央公園を流れる黄瀬川河床に露出する富士山の噴出物である三島溶岩に架かる「五竜の滝」と富士山がモチーフになっています。左右に市の花「アシタカツツジ (*Rhododendron komiyamae*)」が彩を添えています。

**裾野市 2 (第 3 図)** 裾野市のマスコットキャラクター「すそのん」の顔の部分をレイアウトしています。「すそのん」とは、「すその水ギョーザ」の妖精で、富士山の帽子をかぶっているそうです(裾野市 HP: すそのんの秘密基地)。カラー部分は塩化ビニールに印刷したプレートを貼ってあり、市役所前に設置されています。キャラクターの一部に富士山が使われているので、紹介します。

**裾野市 3 (第 3 図)** 上水道の制水弁のメンテナンスホールの蓋に、富士山とアシタカツツジのデザインが施されています。

**駿東郡長泉町 (第 4 図)** 黄瀬川河床に露出する三島溶岩に架かる「鮎壺の滝」ごしに富士山を望むデザインです。花開く町の木「モッコク (*Ternstroemia gymnanthera*)」と町の花「サツキ (*Rhododendron indicum*)」のほか、マツやササが川岸を覆っています。鮎壺の滝は、前述した裾野市の五竜の滝からおおよそ 6 km 下流にある滝です。

**駿東郡清水町 (第 4 図)** 富士山を背景にして、柿田川に架けられた石組みの柿田眼鏡橋がレイアウトされています。現在眼鏡橋は崩れかかっている、橋としては使われていません。富士山の手前の山は愛鷹山あしたかでしょうか。柿田川は、柿田川湧水群を源流とする全長 1.2 km の清流です。膨大な湧水を湛える湧水群は三島溶岩の末端から湧き出しています。柿田川の湧き水は水道水として利用されています。湧水群一帯は公園となっており、水が湧き上がる様子を観察することができます。

**三島市 (第 4 図)** 観光施設「三島スカイウォーク」を

運営する企業が三島市に寄贈したマンホールです。吊り橋の背景に富士山がデザインされています。

**田方郡韮山町 (現伊豆の国市) (第 4 図)** 韮山反射炉と名産のイチゴの背後に富士山が大きく描かれています。韮山反射炉は、江戸時代末期に建造されました(伊豆の国市 HP: 国指定史跡韮山反射炉)。この溶解炉で鉄を精錬して大砲などが作られました。国指定文化財となっているほか、「明治日本の産業革命遺産」の 1 つとして世界遺産に登録されています。反射炉の外壁には江戸城の石垣の石材として知られる伊豆石(緑色凝灰岩)が使われています。

**熱海市 (第 4 図)** 熱海市街地からは伊豆の山並みに阻まれて富士山は見えませんが、沖合に浮かぶ小島、初島からは望むことができます。初島だけに設置されているマンホールには、下半分に相模湾の海と伊豆の山並みの奥に見える富士山が描かれ、上半分には熱海市街から見た初島がデザインされています。手前にはイセエビ (*Panulirus japonicus*)、サザエ (*Turbo sazae*) そして島のリゾート施設を象徴するヤシ科 (*Arecaceae*) の植物が配置されています。

**沼津市 1 (第 5 図)** 駿河湾、愛鷹山、富士山を眺望し、手前に市の花「ハマユウ (*Crinum asiaticum*)」、市の木「マツ」を配置したデザインです。このデザインは沼津市の一般的なマンホールとして使われています。愛鷹山は富士山よりも古い火山なので、浸食が進み、地形の凹凸が顕著な山です。

**沼津市 2 (第 5 図)** 戸田湾へだの高台から富士山を望む風景がデザインされています。戸田湾には帆船の「ヘダ号」が浮かび、タカアシガニ (*Macrocheira kaempferi*) がレイアウトされています。左側にある岬は砂嘴さしからなる御浜岬みはまで、先端に諸口神社の鳥居が見えます。「ヘダ号」は、安政地震の津波で破損して沈没したロシア船の代替船として、ロシア人技師と戸田の船大工が協力して建造した日本初の本格的な洋式帆船です。駿河湾は、ユーラシアプレートへフィリピン海プレートが沈み込む境界であることから、日本でもっとも深い湾となっています。そのため多くの深海生物が生息しており、戸田漁港には深海に棲息するタカアシガニや魚が水揚げされています。

**沼津市 3-5 (第 5 図)** これらはテレビアニメ番組の「ライブ!サンシャイン!!」のデザインマンホールです。



第4図 静岡県の富士山マンホール大全2  
市町村名はデザインマンホールが採用されたときの名称で示してあります。



第5図 静岡県の富士山マンホール大全3  
市町村名はデザインマンホールが採用されたときの名称で示してあります。

アニメの舞台が沼津市なので、「沼津市×ヌマヅノタカラプロジェクト」がクラウドファンディングで資金を集めて作成した企画型デザインマンホールです。完成後は沼津市に寄贈されて商店街などに実際に設置されています。全 11 種のうち、富士山が含まれるものを紹介します。3：登場人物「黒澤ダイヤ」の背景に富士山。カラー版も存在します。4：登場人物「津島善子」の背景に赤富士。5：登場人物が通う沼津市内浦にある架空の高校「浦の星女学院」の富士山を含む校章。

**田方郡戸田村（現沼津市）（第 5 図）** 沼津市井田地域だけに設置されているデザインマンホールです。これは旧戸田村の漁業集落排水処理施設のマンホールです。高台から望む井田漁港の風景がモチーフとなっています。手前に菜の花とマツが配置され、「井田」と書かれた平地の先に駿河湾、その奥には富士山がそびえています。デザイン中の「菜の花の里」と「井田」の文字は、初春に催される「菜の花祭り」に合わせて菜の花畑が「井田」の文字に刈り取られることに由来しています。

**富士宮市（第 3 図）** 富士山を単純化した幾何学的な模様を同心円状に配置したメンテナンスホールです。特に用途をしめす表示はありませんが、緑に塗色した蓋はガス関係であることが多いので、都市ガスのメンテナンス用の蓋と推測されます。なお、脱稿の時点で富士宮市の下水用デザインマンホールはありません。

**富士市 1（第 6 図）** 波立つ駿河湾と麓に雲海を従えた富士山のデザインです。このカラーマンホールは極彩色に塗色しており、朝日があたり赤く染まる赤富士をイメージしています。色の付いていない通常版は、見た目の印象が全く異なります。ちなみに、マンホールの富士山山頂の方向が下水の流れる方向を示しています。

**富士市 2（第 6 図）** 1つ目のマンホールと構図は一緒ですが、細かな意匠が異なっています。色は凸部に塗られており、塗り方が雑なので、設置した後に塗られた可能性もあります。

**富士市 3（第 6 図）** 富士南麓の富士市などにある神社にかぐや姫にまつわる伝説が伝承されています（富士市 HP：富士山信仰とかぐや姫伝説）。その伝承ではかぐや姫が最後に帰るのは月ではなくて、富士山とされています。その伝説にちなんで、この消火栓の蓋にはかぐや姫、竹、

富士山が描かれています。

**富士市 4（第 6 図）** 茶畑と富士山の写真がプリントされたマンホールです。富士市で一番盛んに作られている農作物は茶葉なので、まさしく富士市を代表する景色です。

**富士市 5（第 6 図）** 富士市と富士宮市に設置されている岳南排水路の 50 周年記念に岳南排水路管理組合が設置したデザインマンホールです（岳南排水路 HP）。光が灯された夜も稼働する製紙工場、そして製品のトイレットペーパー、水路の排水が流れ込む駿河湾名産のサクラエビ (*Lucensosergia lucens*) とシラス、背後に山頂と宝永山の標高が示されたリアルな富士山が配置されているデザインマンホールです。岳南排水路は、富士山の豊富な水を使う製紙工場から排出される汚水を河川に流さないために作られました。排水路の完成によって、稲作などへの被害は減りましたが、その代わりに排出先の田子ノ浦港でヘドロ汚染が発生してしまいました。このヘドロ公害は社会問題となり、1971 年の特撮映画「ゴジラ対ヘドラ」のテーマとして取り上げられています。ちなみにゴジラと戦う怪獣ヘドラは、田子の浦湾のヘドロから生まれた怪獣です。現在はそれぞれの工場排水処理施設を設置して綺麗な排水が流されています。

**富士市 6（第 6 図）** 東海道本線の吉原駅近くにある「木之元神社」のオリジナルマンホールです。神事に利用されている「六角井戸」は歩道にあるので、約 40 cm の中型の蓋で覆われています。井戸からわき出る豊富な水と富士山がデザインされています。

**静岡市 1（第 7 図）** 「大御所家康公駿府城入城四百年祭」の事業の一環としてつくられた消火栓のデザイン蓋です。將軍の座を退き大御所となった徳川家康は、1607 年に静岡市にある駿府城に入城しました。富士山と安倍川を背景に甲冑がレイアウトされています。

**静岡市 2（第 7 図）** 久能山東照宮社殿と久能山から眺める三保の松原、駿河湾そして富士山の風景がデザインされた消火栓の蓋です。家康公の好物との説がある縁起物の「一富士二鷹三茄子」がちりばめられています。茄子などが無い 2015 年に設置された別バージョンの蓋もあります。ちなみに、家康公は人生のおおよそ 3 分の 1 を駿府で過ごしたそうです。



第6図 静岡県の富士山マンホール大全4





第7図 静岡県の富士山マンホール大全 5  
市町村名はデザインマンホールが採用されたときの名称で示してあります。

**静岡市 3-4 (第7図)** 漫画家の「さくらももこ」さんが生前に自費で制作し、静岡市に寄贈したマンホールです。自身の幼少期をモデルとした漫画・アニメの「ちびまる子ちゃん」がデザインされています。3のマンホールには、通学スタイルのまる子ちゃんの背景に駿河湾・茶畑・富士山が配置されています。4のマンホールには、よそ行き姿のまる子ちゃん、そして駿河湾・魚・富士山が描かれています。「さくらももこ」さんは旧清水市出身ですが、これらのマンホールの作成時には静岡市に合併されているため、静岡市と書かれています。

**静岡市 5 (第7図)** 右下に竪穴式住居、左側に安倍川、上段に富士山が描かれた消火栓の角形の蓋です。登呂遺跡は、弥生時代の水田跡や竪穴式住居で有名な遺跡です。本稿では紹介していませんが、似たような構図のデザインが施された水道の量水器の蓋もあります。

**静岡市 6 (第8図)** 駿河区応援隊長の「トロベー」というキャラクター(静岡市駿河区 HP:トロベーのおうち)がメインデザインのマンホールです。トロベーの顔は登呂遺跡の竪穴式住居です。手前に特産品として知られる久能山のイチゴ、そして背景には富士山が鎮座しています。

**麻原郡由比町 (現静岡市) (第7図)** 名産品の桜エビと富士山がデザインされた、水道の仕切弁の蓋です。

**清水市 (現静岡市) (第8図)** 三保の松原と富士山のデザインです。三保の松原は砂嘴からなる三保半島に広がり、古くから景勝地として有名です。

**藤枝市 (第4図)** 市の木「マツ」、市の花「フジ (*Wisteria floribunda*)」、市の鳥「ウグイス (*Horomis diphone*)」そして富士山がレイアウトされたデザインです。旗雲のような雲がかかる縦長の富士山が印象的です。

**焼津市 1 (第8図)** 富士山を背に、波立つ駿河湾を威勢良くはねる2匹のカツオ (*Katsuwonus pelamis*) がレイアウトされたデザインです。中型のマンホールも同じデザインが採用されています。焼津港は冷凍カツオの水揚げが日本一です。

**焼津市 2 (第8図)** 小型のデザインマンホールは、デザインが異なり、富士山の手前に広がる駿河湾に1匹のカツオ、市の鳥「ユリカモメ (*Larus ridibundus*)」がレイ

アウトされています。これと同じデザインが極小のプラスチック蓋にも使われています。

**島田市 (第8図)** 人足が担ぐ蓮台にのって大井川を越す様子(蓮台越)がデザインされています。大井川の背後に富士山が見えます。カラー版も存在します。江戸時代の大井川には諸般の事情で橋が架けられていなかったため、川越の人足の手を借りて川を渡っていました。島田宿は大井川の川渡しで栄えた東海道の宿場です。

**麻原郡吉田町 (第8図)** 吉田町ピーアール部長の「よし吉」のデザインマンホールです。雲海の奥に富士山があります。「よし吉」は吉田町の地元の特産品のしらす、鰻、レタスなどを身にまとった水の妖精です(吉田町 HP:よし吉紹介)。

### 3. 富士山マンホールの分布とデザイン

前章で39種類の富士山マンホールを紹介しました。そこで、分布やデザインの傾向についてまとめてみます。静岡県の富士山マンホールの分布(第2図)を見ると、大井川よりも東側の地域に集中しています。唯一の例外が吉田町となります。大井川より西側の地域では、見えていながらもかわらず、富士山を郷土の山として認識していない可能性があります。歴史的にみると大井川は遠江国と駿河国の境界なので、西の遠江国からすると富士山は隣の駿河国の山というイメージが強いのかもかもしれません。伊豆半島に富士山マンホールが少ないのは、そもそも富士山が見える場所が少ないことが理由と推察されます。

木版画で有名な葛飾北斎の「富嶽三十六景」では、美しい円錐形のデザインが崩れることを嫌ったのか、宝永火口は表現されていません。富士山マンホールのデザインでは、抽象的なものからリアルなものまで多様性があり、宝永火口が表現されているものもあります。宝永火口は、戸田村、富士市1~5、静岡市5・6、清水市、焼津市2、吉田町のマンホールに描かれた富士山に表現されています。宝永火口の他に富士山の特徴的な地形として、西側にある大沢崩れがあります。しかし、西側の富士市や静岡市などのデザインには、それと分かる様な明確な表現は認められません。

富士山マンホールに描かれた富士山のデザインの共通点は、頂上に残雪があることです。また、本稿で紹介したマンホールの大半に富士山とともに雲がデザインされていることが印象的です。



第8図 静岡県の富士山マンホール大全6  
市町村名はデザインマンホールが採用されたときの名称で示してあります。

#### 4. 富士山が噴火する前

静岡県富士山マンホールを紹介しましたが、富士山は地質学的にどのような山なのでしょう？富士山は日本に111座ある活火山のうちの1つです。富士山の最後の噴火は、江戸時代の宝永4年(1707年)で、その噴火口はいくつかの富士山マンホールに描かれている「宝永火口」です。富士山の地下には3つの古い火山があり、4つの火山が重なっています(Yoshimoto *et al.*, 2010)。富士山の地下にある最も古い先小御岳火山は数十万年前にできたと考えられています(Yoshimoto *et al.*, 2010)。

富士山の地質を紹介するまえに、地質学的に見てどのような場所で噴火しているのかを調べてみましょう。富士山は、丹沢山地、御坂山地、富士川沿いの山地、箱根、愛鷹山の山々に囲まれています(第9図)。

丹沢山地、御坂山地、富士川沿いの山地は主に中新世の地層からなり、箱根や愛鷹山は第四紀の新しい火山です。富士山は地質学的にみると、ユーラシアプレートとフィリピン海プレートの境界付近に位置しています。また、ユーラシアプレート側は、糸魚川-静岡構造線の東側にある南

部フォッサ・マグナ地域にあたります。

橈形山地、御坂山地、丹沢山地、伊豆半島は、かつて伊豆-小笠原弧の一員としてフィリピン海プレートの東端にそれぞれが島として配列していました。フィリピン海プレートはユーラシアプレートに向かって移動しているため、プレート上にある島々は本州に次々と衝突して付け加わったと考えられています(Amano, 1991など)。つまり、富士山周辺の山々の地質は、フィリピン海プレートがユーラシアプレートに沈み込むことによって形成されたこととなります。ちなみに、「伊豆島」は、おおよそ100万年前に本州に衝突したので、富士山が誕生した頃には伊豆半島は存在していました。

富士山の基盤は大量の火山噴出物で覆われているため、直接調べることはできません。しかし、堆積物に含まれる礫がどこから運ばれてきたのかを推定することによって、富士山の基盤地質を間接的に検討した研究例があります(柴ほか, 1991)。

富士山の南西側には富士山誕生前の鮮新世から更新世の時代に堆積した庵原層群(第9図)が分布しています。この地層に含まれる礫の種類から、富士山の基盤の地質が推



第9図 富士山周辺の立体地質図  
基図としてシームレス地質図及び地理院地図を利用しました。陸域のフィリピン海プレートとユーラシアプレートのプレート境界の正確な位置は、分かっていません。赤線で示す範囲は、丹沢山地を構成する丹沢層群の分布域です。

定されています(柴ほか, 1991)。庵原層群に丹沢山地起源の結晶片岩の礫が含まれていることや、礫の大きさが大きいことから、丹沢山地が富士川付近まで連続していたと推定されています。この富士山の下に存在した古い山地は、古丹沢山地と命名されました。古丹沢山地は浸食され、周辺地域に河川によって運ばれた礫が堆積したと考えられています。また、礫を運んだ河川は駿河湾に流れ込んでいたと推定されています。

本稿では数多くの静岡県の富士山マンホールの紹介でページを割いてしまったため、富士山の成り立ちと地質については、次回で紹介します。

## 5. 最後に

今回紹介した地域には、富士山マンホール以外のデザインマンホールが数多く存在します。複数のデザインマンホールを設置している自治体は少なくないのですが、静岡県では特に種類が多いようです。また、企画型、企業等のオリジナル、寄贈など設置のいきさつが多様であることも静岡県の富士山マンホールの特徴です。本稿で紹介した静岡県の富士山マンホールをすべて巡り歩くには、最低でも1週間ほどかかります。なお、撮影を開始してから本稿を執筆している間に、次々と新しい富士山マンホールが設置されたため、追加の写真撮影を何回もすることになりました。際限がないので撮影ずみの富士山マンホールを紹介しましたが、今後も増え続けると予想されます。ちなみに、富士宮市で富士山のデザインマンホールを設置する動きがあるようです。次回は山梨県の富士山マンホールを紹介します。

(その6に続きます)

## 文 献

秋山忠右・中原 淳(2009) 知られざる日本の不思議百景「県境」の秘密. PHP 研究所, 229p.

Amano, K. (1991) Multiple collision tectonics of the South Fossa Magna in central Japan. *Modern Geol.*, 15, 315-329.

柴 正博・佐瀬和義・角田史雄・志知龍一・田中鉄司(1991) 富士山の基盤. フォッサマグナの隆起過程, 地団研専報, no. 38, 1-10.

田代 博(2011)「富士見」の謎 - 一番遠くから富士山が見えるのはどこか?. 祥伝社親書, 255p.

Yoshimoto, M., Fujii, T., Kaneko, T., Yasuda, A., Nakada, S. and Matsumoto, A. (2010) Evolution of Mount Fuji, Japan: Inference from drilling into the subaerial oldest volcano, pre-Komitake. *Island Arc*, 19, 470-488.

## 参照 Web サイト

富士市 HP (富士山信仰とかぐや姫伝説) <https://www.city.fuji.shizuoka.jp/kyouiku/c0403/fmervo0000011mgn.html> (閲覧日: 2019年10月31日)

岳南排水路 HP <http://gakunan-haisuiro.jp/indexnew.html> (閲覧日: 2019年10月31日)

伊豆の国市 HP (国指定史跡韮山反射炉) [https://www.city.izunokuni.shizuoka.jp/bunka\\_bunkazai/manabi/bunkazai/hansyaro/index.html](https://www.city.izunokuni.shizuoka.jp/bunka_bunkazai/manabi/bunkazai/hansyaro/index.html) (閲覧日: 2019年10月31日)

小山町 HP (金太郎紹介) [http://www.fuji-oyama.jp/kankou/bunka\\_kintarou\\_about.html](http://www.fuji-oyama.jp/kankou/bunka_kintarou_about.html) (閲覧日: 2019年10月31日)

静岡市駿河区 HP (トロペーのおうち) <https://machipo.jp/com/surumaga/トロペーのおうち> (閲覧日: 2019年10月31日)

裾野市 HP (すそのんの秘密基地) <http://www.city.susono.shizuoka.jp/susonon/index.html> (閲覧日: 2019年10月31日)

吉田町 HP (よし吉紹介) <http://www.town.yoshida.shizuoka.jp/3197.htm> (閲覧日: 2019年10月31日)

---

NAGAMORI Hideaki (2020) The geological world from the view of designed manholes 5, -Mt. Fuji in Shizuoka Prefecture-.

---

(受付: 2019年10月31日)